



水系

JIS A 6909 耐候形1種相当

<ビュートップフツソ>
艶有のみ適用<ビュートップフツソ弾性>
艶有のみ適用

F☆☆☆☆

<ビュートップフツソ>

NSK-0407004(中塗)

NSK-0407005(上塗)

<ビュートップフツソ弾性>

NSK-1010018(中塗)

NSK-1001008(上塗)

水系ふっ素/水系弾性ふっ素樹脂塗料

ビュートップフツソ

艶有

半艶

7分艶

3分艶

ビュートップフツソ弾性

艶有

半艶

ビュートップフツソ／ビュートップフツソ弾性は
優れた耐久性と低汚染により、
長期メンテナンスフリーを可能にします。

特 長

01 高耐候性

ふっ素樹脂エマルションの塗膜は長期間にわたり
建物を保護します。

02 低汚染性

塗膜に親水性が有り、低汚染性に優れています。

03 防藻・防カビ性

防藻、防カビ性に優れています。

04 安全性

水系なので、屋内外で安全に使用できます。



ビュートップフツソ 弾性なら！

防水形複層仕上材の上塗りとして使用できます。

用 途

- ・一般建築物の内外装
- ・高耐候性・低汚染性が求められる箇所

適用下地

コンクリート・モルタル・各種旧塗膜の塗替え等



ビュートップフッソ ビュートップフッソ弾性

標準施工仕様

工 程	材 料・調 合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(23℃)	所 要 量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とします。				
下 塗 り	キクスイプライマースーパーE 主材:15kg 無希釈	エアレススプレー等	1	3 以上	80~150㎡/15kg 0.10~0.19kg/㎡
中 塗 り	ビュートップフッソ 中塗 主材:16kg 清水:0~1.6L	ウールローラー エアレススプレー等	1	3 以上	91~128㎡/16kg 0.125~0.175kg/㎡
上 塗 り	ビュートップフッソ 上塗 主材:16kg 清水:0~1.6L	ウールローラー エアレススプレー等	1	—	91~128㎡/16kg 0.125~0.175kg/㎡

(注) 上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

工 程	材 料・調 合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(23℃)	所 要 量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とします。				
下 塗 り	防水形複層仕上塗材の下塗り、主材塗りの仕様によります。 弊社推奨主材:キクスイ 弾性タイル・ルナ、キクスイ ラバーウォール等				
主材塗り					
中 塗 り	ビュートップフッソ弾性 中塗 主材:16kg 清水:0.8~1.6L	ウールローラー(中毛) エアレススプレー等	1	2 以上	80~128㎡/16kg 0.125~0.20kg/㎡
上 塗 り	ビュートップフッソ弾性 上塗 主材:16kg 清水:0.8~1.6L	ウールローラー(中毛) エアレススプレー等	1	—	80~128㎡/16kg 0.125~0.20kg/㎡

(注) 上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

荷 姿

■ビュートップフッソ

ビュートップフッソ 上塗 NET 16kg/缶入
ビュートップフッソ 中塗 NET 16kg/缶入

■ビュートップフッソ弾性

ビュートップフッソ弾性 上塗 NET 16kg/缶入
ビュートップフッソ弾性 中塗 NET 16kg/缶入

注 意 事 項 (水系上塗材)

【施工上の注意事項】

○下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率10%以下、pH10以下で施工してください。
○かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白剤「K5スクリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
○ヤニ、シミが著しい場合は水洗き後、下塗りとして水系ヤニ、シミ止め白色下塗材「シミナイ」を使用し、ヤニ、シミ止めを行った後上塗りを行ってください。
○コンクリート下地の旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後に、「キクスイ浸透性プライマーE」や、「キクスイSPパワーシーラー」を使用してください。
○押出成形セメント板、GRC板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイSPパワーシーラー」や、「キクスイプライマーEPW」を使用してください。
○ALCやコンクリートなどで集、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材「BR#15」等で処理してください。
○無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所に相談ください。
○合成皮革、ゴムパッキン、塩化ビニル製品などには、塗膜との接触を避けてください。可塑性のブリードによる粘着が起きる場合があります。
○蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)に塗装する場合は、蓄熱水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。ご採用に当たっては最寄りの営業所に相談ください。
○大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。
○下地に弾性系塗膜の場合には、弾性系上塗材を使用してください。
○塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合、(高湿度、結露、降雨等)塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低湿度は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
○外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
○絶えず結露が発生するよう部位、場所への塗装はしないでください。
○直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
○施工時は換気を十分にしてください。
○施工時は飛散防止として養生は十分にしてください。
○施工面とその周辺(車や付帯設備を含む)や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工面周辺に適切な養生を行ってください。
○乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行なうなど、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
○塗料は均一にミキサーで攪拌してから使用してください。
○二液反応硬化形の材料の場合は、主材と硬化剤を指定の比率で混合し、ミキサーで混ぜ合わせて使用してください。特に1分けで使用する場合、計量器を用いて行ってください。混ぜ合わせ後の材料は、可使時間を切ってください。また、可使時間と温度、希釈率などの条件により変わりますので、注意してください。
○材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足はダレや陥み、剥離、仕上がりムラの原因となります。
○各種施工仕様記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
○色、模様、形状の決定に当たっては事前に見本で確認してください。
○被塗物の形状、厚さ、塗回数、希釈率などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー・塗装時の温度・湿度・乾燥時間等により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
○既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
○ローラー塗りの場合は、ローラー目は一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
○傷など補修塗料が必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
○他の塗料と混合して使用しないでください。
○水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗装に支障が出ますので化繊の刷毛を使用してください。
○上塗りのローラー塗装において、綿毛のローラーで水系塗料を塗装し泡が発生した場合は、糸毛のローラーを使用してください。
○使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
○溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を遵守してください。
○ローラー塗りの場合は、ローラー目は一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上が

りが異なって見えることがあります。
○つや調整品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
○つや調整品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
○刷毛塗りやローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
○濃色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クレーヤーによる保護塗装を行ってください。
○上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠ぺい性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
○希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
○防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
○施工部位により、傾斜壁の下端部、水切りが無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
○施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になりますと、艶が抜け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。
○各シーリング材は可塑性の含まないノンブリードシーリング材を使用してください。また、シーリング材の上へ直接施工する場合は、シーリング材の種類や材齢によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの営業所に相談ください。
○磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。
○直射日光下や屋外、0℃以下の保管はしないでください。
○建築用仕上塗材(JS A 6909) 複層塗料および可とう防改修塗料は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS規格品とはなりません。
【安全衛生上の注意事項】
●製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:旧MSDS)を参照してください。
●取扱い後は手洗い、うがいを十分にしてください。
●適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
●火花を発生しない工具を使用してください。
●屋外または換気の良い場所でのみとし、火気厳禁にしてください。
●必要な時間以外は、環境への放出を避けてください。
●製品の混ぜ合わせは、防塵型ミキサーにて行ってください。また、必ずアースを取ってください。
●火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
●目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
●誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
●エポキシ樹脂系の材料は、皮膚に付着した場合は皮膚を洗い、特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短期間に引火性の高い蒸気が発生します。注意してください。
●合成樹脂などの電気絶縁性の床で材料の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
●子供の手の届かない所に保管してください。
●塗料や塗料の付いた布などを処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
●塗料、塗装器具を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を遵守の上、産業廃棄物として処理してください。



本社／名古屋市中区錦2丁目19番25号 日本生命広小路ビル
☎052-300-2222(代)

ホームページ ▶ <http://www.kikusui-chem.co.jp/>



仙 台 支 店 ☎ 022-706-5710 関 西 支 店 ☎ 06-7668-5320
東 京 支 店 ☎ 03-3981-2500 福 岡 支 店 ☎ 092-935-4610
名 古 屋 支 店 ☎ 0568-69-5200



●このパンフレットは2018年10月の情報により作製しております。
●このパンフレットに掲載の製品は、予告なしに仕様や取り扱いを変更することがあります。
●諸官公庁等の特記仕様がある場合は、それを優先して下さい。

vol.12 20.2.h ⑥